

## 第2回幕張新都心まちづくり将来構想懇話会 開催結果

1. 日 時 2021年11月17日(水) 15:30～17:30
2. 場 所 Web開催
3. 参加者 ≪有識者≫5名(五十音順)  
田中里沙 委員、土肥武司 委員、豊田啓介 委員、馬場未織 委員、  
広井良典 委員

≪関係者≫5名(五十音順)  
遠藤峰志 委員、金親芳彦 委員、後藤君子 委員、島田達人 委員、  
田村聡明 委員

≪オブザーバー≫1名  
越川智子(習志野市 総合政策課長)

≪千葉市≫2名  
勝瀬光一郎 未来都市戦略部長、志村佳貞 幕張新都心課長

≪運営事務局≫1名  
横山聡(株式会社三菱総合研究所 主任研究員)

4. 議 題
- (1) 開会挨拶
  - (2) 幕張新都心まちづくり将来構想原案説明
  - (3) 全体討議
  - (4) その他

### 5. 議事概要

- (1) 開会挨拶  
千葉市より開会挨拶を行った。
- (2) 幕張新都心まちづくり将来構想原案説明  
幕張新都心まちづくり将来構想原案について、千葉市より説明を行った。
- (3) 全体討議

【第1部】「30年後の「よりよい」幕張新都心に近づけるために必要な、実現すべき取り組みのアイデア」というテーマで有識者、関係者と討議した。

【第2部】「30年後の「よりよい」幕張新都心に近づけるために必要な、分野横断的な取組み・仕組み・基盤に関するアイデア」というテーマで有識者、関係者と討議した。

(4) その他

オブザーバーや千葉市から全体討議に関する感想を述べた後、事務連絡を行った。

6. 会議経過

～以下、議事要旨～

(1) 開会挨拶

(千葉市) 開会挨拶を行った。

開会挨拶	
勝瀬 未来都市戦 略部長	<p>勝瀬でございます。皆様、本日はお忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>前回6月28日の第1回懇話会では、幕張新都心まちづくり将来構想骨子案をもとに、第1部では専門的知見から「今後想定される都市のまちづくりに関する将来変化について」というテーマ、第2部では「幕張新都心で生活していて感じる課題、課題を踏まえた期待」というテーマで様々な視点からご意見をいただいたところでございます。また、7月11日には「マクハリ ミライトーク」と称して、幕張新都心に在住・在勤・在学の方約20人にご参加いただき、ワークショップを開催し、生活者、活動者の皆様から生の声を聞かせていただいたところでございます。</p> <p>これらのご意見を踏まえまして、検討を重ね、幕張新都心将来構想の原案をとりまとめましたので、本日はこの原案をもとに改めてご意見をいただき、将来構想をブラッシュアップしていきたいと考えてございます。</p> <p>本題に入る前に、本日の全体的な流れをご説明いたします。まず、千葉市より原案の概要につきまして15分程度でご説明いたします。続きまして原案の内容を踏まえ、第1部では幕張新都心をさらに成長・発展させるための取組みのアイデアについて、50分程度の意見交換をお願いいたします。特に、将来構想第8章に記載のまちづくりの方向性、取組イメージについて、ご意見をいただくと幸いです。第2部では、幕張新都心をさらに成長・発展させるため、分野横断的な取組み・仕組み・基盤のアイデアについて、30分程度の意見交換をお願いいたします。</p> <p>全体といたしましては、17時30分頃の終了を予定してございます。以上でございます。</p>
運営事務局	勝瀬様、どうもありがとうございました。少しだけ、事務局から補足させ

	<p>ていただきます。</p> <p>本日の議論は、お送りしております原案の 8 章についての議論ということで、第 1 部、第 2 部と分けてございますが、8 章が全体で 7 節立てになってございます。今投影している丸 7 つがその 7 節に対応してございます。</p> <p>主に前半の第 1 部、今ご説明いただきました幕張新都心をさらに成長・発展させるための取組みのアイデアですが、おおむね最初の 1 節から 4 節まで、職・住・学・遊それぞれに関することを整理してございます。若干はみ出るところもございますが、第 1 部については主にこちらの職・住・学・遊それぞれについて対応しているところでございます。</p> <p>そして後半の第 2 部、分野横断的・仕組みに関すること、というのは主に 5、6、7 節、全体の回遊性の話や、進めるための仕組み、基盤のような面に関することに対応しているところでございます。</p> <p>実際には少し行き来があると思いますので、厳密ということではないのですが、概ねそういった 1 部、2 部の内容について分けてございますことをご了承いただければと思います。</p>
--	---

**(2) 幕張新都心まちづくり将来構想原案説明**

(千葉市) 幕張新都心まちづくり将来構想原案について説明を行った。

幕張新都心まちづくり将来構想原案に関する説明	
<p>志村 幕張新都心 課長</p>	<p>千葉市幕張新都心課長の志村です。本日は皆様お忙しい中、第 2 回幕張新都心まちづくり将来構想懇話会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>前回、6 月 28 日にご意見を頂戴いたしました。その間、幕張新都心の将来について「マクハリ ミライトーク」といったワークショップを開催し、住まわれている方、働いている方、学ばれている方から将来に関する意見を伺う他、関係者、様々な関係機関を含めて、色々なご意見を伺ってまいりました。そういった作業を踏まえながら、この原案の作成に取り組んでいきたいところでございます。</p> <p>本日は、この原案をさらにより良いものにするために、皆様からご意見を頂戴したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですが、幕張新都心まちづくり将来構想の原案について、ご説明いたします。まずは、6 月の骨子素案から大きく変更を加えた点を中心にお話いたします。</p> <p>まず、原案 2 枚目の将来構想策定の趣旨です。5 つの考え方を示しておりますが、この考え方に大きな変更はございません。</p> <p>次に 3 枚目の目次をご覧ください。骨子素案では、幕張新都心の現状分</p>

析や評価、幕張新都心が目指すべき姿とのギャップを超えるため、変革の方向性を導き出したところですが、その後の議論の経緯を踏まえまして、ここでは第 1 章の各種計画における将来像・位置づけから、第 6 章の有識者の視点までを整理し、これらを受け、第 7 章に幕張新都心が目指すべき姿を示し、第 8 章でその目指すべき姿へ向かうためにまちづくりの方向性を示すことといたしました。

このようなことから、第 1 章から第 6 章までにつきましては、これまでの調査・分析・評価、皆様から頂戴した意見などを改めて整理したものととなりますので、詳細な説明は省かせていただきます。

なお、本日までご参加いただいております皆様をはじめ、頂戴したご意見等につきましては、スライド 18 枚目に関係者・市民の想いとといった形で整理し、21 枚目、幕張新都心への有識者の視点という形で取りまとめ、紹介しております。

それでは、24 枚目のスライド、第 7 章「幕張新都心の目指すべき姿」についてご説明いたします。幕張新都心がさらに発展するまちづくりを目指すため、まちづくりの理念を大切にするとともに、その理念の実現に向けて重要となる 3 つの柱を骨子案でお示ししたとおり、「新規性・先端性」「多様性」「都市経営」といった形でお示したいと考えております。また、この理念に向けた 3 つの柱を実現するために、様々な取組みを実施することとし、この原案では、新たにまちづくりの方向性として取組方針やそのイメージをお示しする姿に整理いたしました。

それでは、それぞれの詳細につきましてご説明いたします。

25 枚目のスライドをご覧ください。まちづくりの理念です。幕張新都心の歴史と発展の経緯を踏まえつつ、このまちで活動する上で大切にすべき考え方として、お示しするものです。「人と街のチャレンジが続き、ここにしかない嬉しい新しさが生まれる都市、常に未来を追い求め、チャレンジを繰り返しながら成長する都市」といたしました。

骨子素案では、フロンティアスピリットを継承し、世界・アジアと競合しうる日本のトップランナーであり続ける都市、としておりましたが、このトップランナーといった言葉がどのような状態であるのか、どのようなトップランナーを目指すのか、など、この表現に対する理解や納得感に対するご意見を多くいただきました。それを踏まえまして、我々は幕張新都心らしさとは何か、といったことを改めて検討し、これまで成長を続けてきた幕張新都心らしさを追求すること、それが未来を追い求め様々なチャレンジを繰り返すことによって幕張新都心にしかないものが生まれ、他の都市との違いを見出すことにも繋がるものと考えました。

そういった幕張新都心にしかないオンリーワンといった方向性に向けて成長していくことが結果として、トップランナーとなるという当初の考え方に通じるものにも繋がると考えるものです。

次に、目指すべき3つの姿についてです。骨子素案では、現状分析を行い、幕張新都心がどうあるべきかという検討から、3つの姿を導き出しました。それらの検討経緯を踏まえ、今回、第1章から第6章までの内容を基に、3つの姿を導き出す形で整理してございます。

まず、幕張新都心を取り巻く環境や産業構造の変化に対応し、首都圏や千葉県内をリードする存在であり続けるために、新たなコト・モノを創出する土壌が必要といったことから、「新規性・先端性」、既に備わるまちの多様な機能を活用しながら、幕張新都心内外の多様なヒト・モノ・コトの交流を促し、幕張新都心の価値や多様性を向上する、といったことから「多様性」、多様な主体と連携しながら、ハード・ソフトの両面における新たな都市経営の仕組み・基盤が重要であるといったことから「都市経営」、この3つを目指すべき姿として導き出しているところでございます。

なお、骨子素案では、2つ目の多様性を「包摂性」という言葉でお示ししておりました。しかし「包摂」という言葉は、ある概念をより大きな概念の範囲で包み込むという意味でございますが、普段なかなか目にしない言葉であり、その言葉の持つ意味が伝わりづらいということもありますので、今回、「多様性」といった言葉で表現することといたしました。

この3つの姿の関係性を29枚目にお示ししております。新しいコト・モノが生み出される魅力ある環境により多様な人や活動が集まり、より多様な人・活動が受け入れられる、新しいコト・モノが生み出される土壌が築かれる、といった新規性・先端性と多様性が循環し、この循環をより高めるため、様々な主体・住民が協働しながら幕張新都心を持続的に成長するための仕組み・基盤を整える、都市経営が支えることによって、幕張新都心にしかないものが生まれるまちであり続ける姿を目指すものでございます。

それでは第8章「目指すべき姿へ向かうために・まちづくりの方向性」について、ご説明いたします。

骨子案では、取組みのイメージについて、3つの目指すべき姿にその取組みをぶら下げる形で整理をしておりました。幕張新都心の将来の姿をどのように示していくのか、といった中で検討を行った結果、幕張新都心の機能をさらに伸ばすために、といった観点から改めて整理を行ったものです。ここでは、幕張新都心の持つ機能「職・住・学・遊」をさらに伸ばしてゆくといった観点から、目指すべき姿に向かうための取組み・方向性を7つに大別いたしました。

まず、図の左上ですが、1番目として、「職」に関してまちと一体となって新たなコト・モノが生み出せる豊かな環境を作る、2番目に「住」に関しまして、建設当初の理念を尊重しながら、現在のライフスタイルの多様化にも対応した誰もが憧れる住環境を築く、3番目に「学」に関しまして、多様な活動主体が刺激的で先端的な学びの出来る環境を創出する、4番目に「遊」に関して、既存の魅力的な資源をより豊かに活用し、まち全体の楽しさを高める、5番目から7番目につきましては、これら職・住・学・遊の機能を横断的に連携しながら取り組んでいく、といったことを方向性として整理しております。

5番目では、柔軟活用・回遊性に関することとしまして、既存の資源を柔軟に活かし、繋げることで、各エリアの融合を促進し一体感を醸成する、6番目に市民参加に関することとして、住民・企業など多様な主体が手を取り、幕張新都心に誇りを持つための取組み・体制づくり、7番目に基盤・持続可能性に関して、誰もが幕張新都心で安心して暮らせる基盤づくり、といったしました。

このように7つの方向性に対し、取組方針および取組みのイメージを次のスライド以降にそれぞれ記載しているものです。

今後、この方針と取組みの方針を踏まえ、幕張新都心のありたい姿の実現に向けて、官民それぞれ多様な関係者が連携しつつ、積極的に取り組むこととしていきたいと考えるものでございます。

それでは、この31枚目のスライドをご覧ください。

ここでは、1の主に「職」に関することとしまして、表に示しますように、6つの取組みの方針と、それぞれの方針に対する取組イメージを掲載しております。そして、表の右側には、それぞれの方針が、職・住・学・遊のどれに関連しているのか、また、3本柱のどれを実現してゆくものに繋がっているのか、といったことを示すために、黒丸で示しております。

この、それぞれの取組みの方針や、取組イメージにつきまして、これまでの調査・分析、様々なご意見等を踏まえ、幕張新都心らしさを実現するためにどのような取組みが求められているのか、また、3つの柱の実現にふさわしいかなどの観点から整理して記載したものでございます。

本日は、この7つの取組みの方向性とそれぞれの取組みの方針、取組イメージに対して皆様からご意見、または幕張新都心の将来を考えるうえでより考えるべき視点、不足しているものはないか、といったことについてご意見を頂戴できればと考えております。

また、こういった取組み、方向性の実現によって30年後の幕張新都心での暮らしがどのように変わっていくのかといったイメージについても、今後

	<p>掲載すべく、作成に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>説明は以上となりますが、ぜひ皆様から多くの意見を頂戴したいと考えております。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
--	---

### (3) 全体討議

【第1部】と【第2部】に分け、それぞれ意見交換を行った。

#### 【第1部】

田中委員	<p>ご説明ありがとうございました。田中でございます。そして皆様、前回に引き続きどうぞよろしく願いいたします。前回も大変盛り上がりましたので、本日も忌憚のないご意見をたくさんいただけたらと思っております。</p> <p>それではまず、30年後の「よりよい幕張新都心」の姿に向けて必要な、実現すべき取組みのアイデア、というテーマでご議論をしてみたいと思います。</p> <p>将来構想原案8章のまちづくりの方向性や取組みの方針について、投影されたスライドのとおり整理をしておりますが、抜けていると思われる観点や、重視すべき取組み、さらなる具体化等、ご意見をいただきたく思っています。職・住・学・遊の視点で分類しておりますので、ご関心のある個所について発言いただければと思います。</p> <p>議論のお時間は50分程度を目安にしております。それでは、本日はご意見のある方からランダムに手を挙げていただいて、ご議論を始めていきたいと思います。よろしく願います。</p> <p>前回いただいた議論をもとに、整理をしたものが本日ご説明いただいた内容となっているわけですが、お示しいただいた内容がもう少し深く出されると良い、違う切り口があると良いといった風に思われる点もあるかと思えます。</p> <p>ちょうど、私の画面に今回新たにご参加いただきましたイオンの後藤さんが写っておりますので、いきなりで申し訳ないですが、よろしければご意見をお願いします。</p>
------	--

#### 第1部全体討議

後藤委員	<p>皆様初めまして。イオンの後藤と申します。前回、丹羽という男性が出席しましたけれども、今回、代わりということで参加させていただいております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>改めて幕張新都心のあるべき姿、それに向かうための3本柱を拝見して、とても明るい幕張新都心が見えて、非常にわくわくしております。</p> <p>30年後の幕張新都心エリアはどうなっているか、というところからお話しさせていただきます。30年後というと、2051年ですね。例えばこちらに</p>
------	---

	<p>もご参加されている幕張メッセさんは、創業から 62 年目を迎えられる、マリスタジアムさんは 61 年目、当グループの幕張新都心店は 38 年目、ということで、かなり歴史のある街並みになっています。</p> <p>一方で人はどうなっていくかというところですが、千葉県の高齢化率という視点で見ると、30 年後ぴったりのデータがなかったので 2055 年の高齢化率を見ると 38.8%、4 割くらいは高齢の方になります。日本はどうなっているかという、やはり出生率が下がったり、地域によっては小中学校が廃校になってしまったり、社員を集められない、後継者がいないというように、30 年後で切り取ると結構暗い話題が出てくる。その中で、やはり高齢化していく、というところは、テーマとして外せないのではないか、と思います。</p> <p>ですので、私がこのまちづくりの方向性の中で特に重要視したいところと申しますと、一番下の「6. 市民参加に関すること」と、「7. 基盤・持続可能性に関すること」の「安心して暮らせる基盤づくり」というところで、全国に先駆けて高齢者を作らないまちづくり、というのはどうだろうか、と考えております。</p> <p>高齢者を作らない、というのは高齢者を排除するということではなくて、これはアイデアですけれども、例えば、幕張新都心に住む 65 歳以上には、一人ひとりに地域での役割や果たすべき仕事、お家以外に交流ができる居場所とコミュニティがあると。そのコミュニティも、出ていくのがすごく好きな方、あまり得意でない方など多様な方がいらっしゃると思うので、一人ひとりに合っている、というのがキーワードであるかと思えます。</p> <p>もちろん、個別化された疾病予防や医療サービスが受けられるといった、医療系の部分のサポートの厚い部分も必要です。</p> <p>あとは当然ながら移動環境ですね。高齢者の方の移動の問題というのは、おそらく日本全国どのエリアもあると思いますが、そういった部分についても、全国に先駆けて解決に向かっているまちづくり、というのはどうだろうか、という風に考えております。</p> <p>補足的に、若者を呼び込める、企業を呼び込める、といった軸も重要だと思うのですが、特に強調するならば、全国に先駆けて高齢者を作らないまちづくりということで、私の方では考えさせていただきます。</p>
田中委員	<p>後藤様、大変魅力的なご提案をありがとうございます。どんな風なまちにしてゆくかというところに、新たな切り口をいただいたかと思えますし、そこにどう関わっていくべきかというところに、示唆をいただいたけたと思います。</p> <p>ずっと現役で居場所があって、といったまちの表情にしていくという際</p>



	<p>に、色々な切り口が出てくると思います。このお話を聞いたならば、やはり広井先生にコメントいただきたいと思ったのですが、続けてご意見いただけるようならばお願いいたします。</p>
<p>広井委員</p>	<p>ありがとうございます。ちょうど後藤様のご意見を非常に印象深く伺っていたところで、本来自分がそういうことを言うべきだったということも思いました。</p> <p>まさに仰られたとおりで、大きく言えば、日本は世界の中でも高齢化のまさにフロントランナーでもあります。特に皆様ご存じかと思いますが、首都圏がこれから急激に高齢化していくと、高度成長期に首都圏に集まった当時の若い世代が、これから一気に高齢化していきます。</p> <p>高齢化が首都圏を中心にこれから進んでいくという時代の中で、居場所やコミュニティといったものを含めた、高齢化にふさわしいといえますか、それをモデル的に示すような都市のあり方を幕張新都心が示していくということ、それは本当に素晴らしい発想だと思います。</p> <p>これもご発言の中に含まれていたと思いますが、同時に、世代間のバランスが重要になります。多摩ニュータウン、その他、二世世代モデルで作ってきたまちというのは、一気に全体が高齢化しています。ニュータウンがオールドタウン化するといった言い方もありますが、やはり二世世代モデルというよりは三世世代モデルで考えるという視点が重要です。そうすると若い世代が入ってきて、三世世代共存型の都市になっていくということが大事だと思います。</p> <p>前回お話ししまして、先ほどの報告にも書いていただいておりますが、若い世代のソーシャルイノベーションの拠点といったものがあり、社会貢献意識などが高い層も含めて、若い世代が色々な形で出入りできると、先ほどの理念にもありました、ここでしかないような嬉しい新しさ、チャレンジなども並行して進みます。</p> <p>また、個別に言いますと、幕張には放送大学もありますが、あの学校は生涯学習の場でもあり、高齢者の方も多く受講されています。前回も、もう少しゾーンが混ざるといえますか、ゾーン同士の繋がりがあっても良いのでは、というお話があったかと思いますが、放送大学のような生涯学習の場とビジネスのエリア、住宅のエリアなどをもう少し繋がる、といった工夫も色々あって良いかと思えます。</p> <p>もう一点付け加えさせていただきますと、これも前回お話しして先ほどの資料に書いていただいているように思いますが、やはり SDGs 時代でもありますので、自然という要素は大事にするべきだと思います。幕張新都心はまさに海に面していて、千葉市全体として市長さんも海というものを重</p>

	<p>要視されているかと思います。今、スマートシティの議論などが非常に盛んですけれども、例えば自然と共生する都市といったように、もう少し自然という要素を大事にするべきだと考えております。やはり心身が癒されるのは自然との繋がりという要素が大きいと思います。それがまた先ほどの高齢化対応という話とも繋がるかと思います。</p> <p>少しランダムなお話になりましたけれども、いずれにしても先ほどのイオンの後藤さんのご意見を非常に印象深く伺いました。</p>
田中委員	<p>広井先生、大変ありがとうございます。いきいきした高齢者からゾーン同士の繋がり、そして自然や海との共生というところまでお話を繋げていただきました。このキーワードが出てきましたので、馬場さんにお話を聞いてみたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
馬場委員	<p>馬場です。ありがとうございます。海との接点、自然を取り入れていくといったときに、幕張新都心が人工的で大規模な工作物で満たされているという現状にあって、どうやってそれらを融合していくかということを考えたときに、単に緑を増やすといったことではなく、市民が消費者にならないで作り手に回る様な仕組みづくりをすることで、当事者意識が市民に宿っていくというストーリーが有効ではないかと感じておりました。</p> <p>広やかな都市計画であるということを示唆して、その余白に例えば30年後にこのようなありたい姿がある、ということを示しながら、長い時間をかけて少しずつ育てていく空間を持つ。変化を楽しんでいく、概念を目の前で感じるような空間があると良いと思います。それに環境への意識などを絡めていくことによって、相乗効果が生まれるのではないかという風に感じておりました。</p> <p>成長を求めるといっても、今現在、幸福度の高いことが重要であるという観点もでございます。住んでいる人、働いている人の幸福度が高まる、といった視点を置いた都市づくりを、どうすれば行けるか、ということが考えられれば良いと思いました。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。作り続けるというキーワードをいただきました。冒頭に、志村課長からもチャレンジを繰り返しながら成長する都市だというまとめもいただいております。そういった装置を、住、環境、基盤といったところで意識していくべきだと思います。</p> <p>前回、豊田先生からは装置、といった提案をいただいたかと思っておりますので、これまでの議論に続けて何かご意見いただけますでしょうか。</p>
豊田委員	<p>ありがとうございます。皆様のご意見を伺っておりまして、皆さん仰っていたことそれぞれが、本当にその通りだと思っていました。</p> <p>都市というものを作るうえで、住民の使い方やライフスタイルのような、</p>

ハードではコントロールできないものをいかにリードしていくか、間接的に誘導していくかといった新しい作り方がすごく重要になっています。その中で、そこから一周まわってどのようなものをどのように配置しておけばよいのかといった、社会デザインのようなものが非常に求められており、難しいけれども面白い状況であると思います。

その中で、建築や都市の設計側の立場から言うと、前にお話ししたこととだいぶ近くなってしましますが、結局、色々仕組みのところをやったところで、という元も子もない部分はあるのですが、幕張はやはりスケールが非常に大きいわけですね。街区の中でも 100m 単位、下手すると 1 km単位での移動がすぐに生じてしまう。特にゾーニングに関しても、住居向けの部分、職業向けの部分、などがかなり広域で分けられてしまっていて、PDF ファイルにおいて km 単位で用途地域がカラーでベタ塗りされているような塗り分けは、上から見分には良いのですけれども、実際に住んでいる人の歩幅からするとちょっと逸脱しているのがやはり非常に辛いと感じます。この前お話ししましたが、私も隣の検見川浜で生まれ育っていて、あそこですら相当大きかったのですが、幕張はさらに大きいので、共存の関係というのが、体感しづらいなということがあります。

例えば東京だとシェアサイクルのようなものがどんどん出来ていますが、あぁいったものをむしろ官がサポートする形でシステムとして入れていくと良いと思います。ハードとして固定するのではなくて、ハードにシステムとビジネスをプラスするというのを官民連携の形でやっていくことが非常に大事かと思います。

その中で、これも前回お話ししましたが、例えば神田外語大学に非常に良いシェアオフィススペースがあって会議室もたくさんあるのに、居住者が使えないという状況があります。その場所に行くのもやはり大変です。それを、住民が使えるようなシステムになっている、外語大のサテライトキャンパスがベイタウンの方にある、というようにする。そういう今の敷地の用途地域の中に飛び地で小さく水玉模様が作れるような、何かしらの政策なり特区的なことをうまく誘導できると、もっと人が動いて、アイデアが動いて、体験が動くという状況が作れるのではないかと思います。

職・住・学・遊という話をいただいているのですけれども、これらの戦略的な分散化と流動化を、ハードとソフト連携でつくる仕組みができると非常におもしろいのではないかと思います。

さらに例えば馬場さんが仰っていた自然についての話で、幕張新都心に作られた公園は、とても良い公園にはなっていますが、もっと積極的に、空き地に水田や畑を作ってしまうくらいしても良いと思います。

	<p>公園は、どうしてもユーザー側とプロバイダー側が別れてしまっていますが、これからは、ビジネスにしても社会にしても、どちらがプロバイダーでどちらがユーザーでどちらがメーカーなのか分からなくなるような、双方向性と混在というのがとても大事になっていきます。その中で、都市の作り方自体も行政が提供します、民間が提供します、ではなく、お互いがユーザーでありお互いがプロバイダーであるような離散的なシェアの仕組みといったものが作れるような、実験的な仕組みを幕張で作れるとすごく面白いのではないかと思いました。</p> <p>長くなってしまいましたが、もう一つだけ。私は今東京都の公立の色々な意見収集などもやっております。その中で、例えばお台場のさらに先に中央防波堤があり、そこには海の森公園があったりオリンピックでも一部使いましたけれども、あの場所をどう使うかといった話もしています。あそこもかなり広域な自然をうまく生かした都市の補完機能と言えます。</p> <p>単純にあそこに新宿のような新都心を作るのではなくて、都心に欠けている自然を、長野まで行かなくてもそこで1時間、半日だけ感じられるように、うまくスケールと時間軸を混ぜていくといった取組みをするべきなのでは、という議論がありました。それができると幕張のスケール感は逆に埋没してしまうわけです。</p> <p>東京都さんとお話ししていて、ベイエリアの中で、システムと運営を行政の縦割りではなく、千葉・東京・横浜が国際的な視点で連携したベイエリア都市として、スポーツ施設の連携やレジャーと公園の運営を行う、といったことがうまくできると非常に面白いのではないかと、と思いました。</p>
田中委員	<p>豊田さん、ありがとうございます。スケールと時間軸に関して、確かにそういった問題点があると思いました。この幕張という大きいスケールの中で、核となる存在として価値を高めてくれている金親さんの会社や島田さんの会社がありますので、今のお話を受けて、具体的に現場からどのように思われているか、聞かせていただければと思います。島田さん、いかがですか。</p>
島田委員	<p>千葉ロッテマリーンズの島田です。本来であれば、今週の週末から日本シリーズを千葉の方に呼びたかったのですが、残念ながら、ということで、今日はこちらの方に専念させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>今の豊田先生のお話を非常に感銘深く伺っておりました。というのは、我々は今、チームというコンテンツを持ち、スタジアムという施設を管理しているのですが、同時に周辺の公園の管理もさせていただきつつありまして、単にスタジアムを管理するというだけではなく、もう少し公園と一体となって解放していくような方向を試みつつあります。</p>

	<p>実際に、来週の月曜日も球場のそばにある中学校の遠足のゴールとして生徒 300 名がいらっしやいますし、また、マラソン大会を学校の行事としてご計画いただいています。従来、我々は野球をやる、あるいはコンサートを呼び込むということばかりしか考えていなかったのですが、施設をいかに活かしていくかを考えるということは必要ですし、取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>施設は朝 9 時から夜 21 時まで、空いている・いないのどちらかで、野球をやっていない日はほとんど閉ざしてしまっている状態です。草野球で利用されている方はグラウンドを利用されますが、近所の方が散歩に来られる、ジョギングに来られるといった際に立ち寄れるような場所にはなっていないので、そのあたりは変えていきたいと思っています。</p> <p>お話は変わってしまいますが、新規性・先端性のような取組みで言うと、施設の老朽化への対応ですが、ドローンを使った施設の現状の検査や鳥害ということで、想定している以上に鳥が巣を作ったりしているので、鳥害をドローンを使って検査をするということ、11 月の 24 日、25 日に実施します。これは千葉市さんにも助成いただいております、11 月の 22 日にプレス発表します。インフラの老朽化のようなことを考えると、従来であれば仮設の足場を組んで、時間とお金をかけて検査していたものを、今後は新しい技術を使って短時間で効率的に診断していく、というようなことをやっていかなければならないと思っております。</p> <p>あとは、せっかく海があるというこのまちの立地を、もう少し活かしていくような計画もあったら良いのではないかと思います。色々書いてはいただいているのですが、少し、海が one of them のような感じだったので、これだけ海に近い立地をポテンシャルとして生かしていく方向性もあるのではないかと思います。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。ドローンを活かした最先端の取組みは、防災やレジリエンスに関しても貢献度が大きいと思います。海というものをコンテンツとしてもっと大きく取り上げるというご提案も、皆様からもいただいているところかと思っておりますので、この後も意識してまいりたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>金親さんはいかがでしょう。現場の視点も交えてお願いいたします。</p>
金親委員	<p>幕張メッセの金親です。冒頭でイオンの後藤さんのお話を聴いて、将来 30 年、このまちができて 60 年、というところに想いを馳せたときに、私どもの施設もそうですが、それ以外にも非常に大規模なビルがあったりする中で、いわゆる都市機能の更新というのが、この後どのようにしたらうまく計画的に行えるのか。今回のまちづくりにうまく書き込めるかどうかは分</p>

	<p>からないのですが、このまちを計画的に機能更新していけるための何かが見えるともう少し良いのではないかという気がしたのが1点です。</p> <p>今ベイパークに多くの方たちが住みだしているわけですが、30年後の住民たちの姿を考えたときに、そこに至るまでに、新しい住民自治のあり方というのがここで生まれてきてもいいのではないかと思います。いわゆる従来型のものではなくて、もう少し新しいものの決め方や、まちのあり方がそこで議論されるなど。そのような住民自治が新しく芽吹いてくる、そういうまちであっても良いのは、という気がしたのが2点目です。</p> <p>3点目は、この中に少し書き込まれてはいるのですが、いわゆる文化が持つ力がこのまちの中で、まちの価値を高めるためにうまく活かされると良いなと感じました。このあと土肥さんあたりからお話しただけだと思うのですが、先だって土肥さん達のご苦労なさって見浜園で「生態系へのジャックイン展」という非常に素晴らしい展覧会を開催されました。そういった新しい文化、若者たちがこぞって来るような文化、といったものがこのまちの一つの先端性の表れであったり、あるいはまちの価値を高めるような動きになると良いなと感じました。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。都市機能の更新やバージョンアップ、アップデートというようなことは、最先端の都市を続けることの要件かと思います。</p> <p>あともう一つ、今日は初めて出た「文化」という言葉が重要なところで、今一度お話しいただきましたので、皆さんにも大変刺激をいただいたかと思います。土肥先生のお名前をご指名で金親先生からいただきましたので、土肥さん、お話しいただけますか。</p>
土肥委員	<p>メタシティの土肥と申します。先ほど金親さんからご説明があったとおり、ちょうどこの8月に「生態系へのジャックイン展」を幕張の見浜園で開催させていただきました。これは「千の葉の芸術祭」という千葉市主催で文化振興課が中心となって行っている千葉市初めての芸術祭のような催しの一部です。</p> <p>先ほど豊田さんが仰っていたこととまさに同じことを考えていて、アートの分野でも、湾岸地域で連携して何かやるということは、世界的に見てもとても注目されることだと思っています。今、東京と差別化を図るといった流れがある中で、そこはそんなに強く思わなくても良いのではないかと考えているところがあります。</p> <p>あと、先ほど金親さんもお話しされていましたが、職・住・学・遊の4つの後ろに芸術の「芸」というのが入ってくると良いのではないかと、私の周りでもよく話しています。</p> <p>後藤さんが仰っていたお話も、とても興味深かったです。30年後はおそ</p>

らく高齢者が多い、というお話だったのですが、そこで考えるべきだと思っているのは、その高齢者とはいわゆるデジタルネイティブの人間であるということです。今の30代、40代が高齢者になる。その時に高齢者のやるべきことや、プラットフォーム的なものを考えるにあたっては、デジタルを普通に触れる人間たちが高齢者になるということもイメージした方が良いでしょう。現在の行政のあり方の中の「高齢者」というものよりは、少し先を見据えたデザインが必要ではないかと思っています。

あともうひとつ、市民参加というところで思ったのは、先日幕張新駅の名前が決まりましたが、あれはいわゆる市民の投票で決まったものですよね。これはひとつの市民参加だと思いますが、このようなものがもう少し簡易に、色々な場面で使えるようになると良いと思っています。

例えば、いわゆる代議士的にコピーライターやデザイナーなどの名前が色々挙がっていて、その中から選んだ人に名前を決めてもらう、という方法もあったかと思います。多数決で物事を決めることは必ずしも正しくなるかどうか分からないという、そもそもの懸念もあると思うので。

この幕張新都心で新しい合意形成システムのプラットフォームのようなものを作ると良いのではないかと思っています。色々な新しい仕組みを作るのに、行政の方でこういうことをやったらどうかと差し出すのではなくて、いわゆる新しい合意形成システムで、例えばこの公園にこういうものが欲しいということを、市民が決められるような仕組みを作れたら良いなと思いました。

今日本では、加古川市に Decidim というプラットフォームを使った、公園の名前を付けたり、新しい施設の使い方などを決めるのに市民が参加できる仕組みがあります。それは幕張新駅の駅の名前を決めるのと似たような形なのですが、もう少し踏み込んで、それを決める人を選ぶ、といった方法もあります。レストランを建てるときの名前など、この人にお願ひしたら良いのを考えてくれそうだという考えがあると思うので。そういったことを仕組みとしてやればと思っています。

手前味噌ですが、「生態系へのジャックイン展」でも、幕張市プロジェクトというところで、ニュールソーマシーンというものを作っています。その作品の中で、多数決で決めたり、代表を決めたり、ボルダ得点で決めたり、液体民主主義という方法で決めたり、といった4つの方法で選挙のようなものを仮に実施してみました。幕張がどのようなまちになったら良いと思うか、予算の使い方、などを決めたのですが、そうすると、そのやり方で結果が全部違っていたのです。決め方を変えると、世の中の世界性が変わってくるのではないかと、ということが、その作品で表現されていました。そのよ

	<p>うなものを日本で初めて幕張新都心で試してみるのが良いのではないかと思います。</p>
田中委員	<p>重要な観点をいくつもいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>先ほど金親さんから、ものの決め方を新しく、というお話をいただいたかと思えますけれども、今土肥さんからいただいたように、幕張の新しい姿というのは新しい住民自治のソフト面とセットになったものになっていくのではないかと実感いたしました。土肥さんは文化活動など色々なさっていますので、そこから生み出された様々な方法などもあるかと思えます。</p> <p>田村先生は30年後のプレイヤーというか、第一線にいる人を育て続けておられると思いますが、これまでの議論の文脈でも、新たな観点でも、教育の観点からご意見いただけますでしょうか。お願いします。</p>
田村委員	<p>こんにちは。田村です。前回から参加させていただいております。お話を伺っていて、刺激を受けております。お話のとおりになってゆけば良いなど感じております。</p> <p>私はこの幕張で学校を経営しております。だいぶ根付いている感じではあるのですが、先ほどの千葉ロッテマリーンズさんに、本校のマラソン大会で会場としてお借りしたいという話をお受けいただき、非常に喜んでいるところです。今まで、公道を走っていたのですが、なかなか住民の方への説明など、難しい点がありましたので。</p> <p>ゲームを計画したのですが、公道を走る部分がどうしても計画上長くなってしまい、千葉市さんとのご相談の中でやはり周りに住んでいる方々の理解が得られないから、ということで断念したことがありました。今年は、お隣のJFA(日本サッカー協会)さんにご協力いただけることになりましたので、マラソン大会を実施できるよう今一生懸命取り組んでおります。</p> <p>学校としては、卒業生を含めて、幕張に戻ってきてくれている学生もいて、それを楽しみにしています。まちの魅力が上がるのは大変ありがたいと思っております。</p> <p>弊校の高校生の中には、最近やはり社会課題に関して関心を持つ生徒が大変増えてきております。学校を取り巻く環境については、オンラインで学ぶので十分でないかという議論もあり、皆で集まる意味、学校に皆で通う意味を改めて見直しながら、まちとしての価値をいかに高めてゆくかというところを、今一生懸命考えているところでした。考えるなかで、地域と一体となることができるのではないかと感じているところです。</p> <p>いわゆる、学校で営為できない関係が、場合によってはまちづくりの中でできるのではないかと期待するところもありまして、先日、志村課長にご相談させていただきましてけれども、高校生の声を伝えるいわゆるカフェの</p>



	<p>ような、学校以外で普通の方と交わるような機会があると良いと思います。</p> <p>複数の学校が周りに点在していますので、そういった学校間の交流にも繋がりますし、一つの学校ではできないことも連携することでできるのではないかと。やはり、幕張としての名前を首都圏で高めていく為には、学校間の交流を使った何かしらのパートナーシップが必要だと思います。</p> <p>コンセプトであるいわゆる「嬉しい新しさ」というのは本当に良いと感じています。わくわくして参加できるような、社会課題を解決する取組みを周りの学校と意見発信して、活動できるような関係があると良いのではないかと感じております。</p> <p>私自身が経営をやらせていただいている中の話なので、少し狭い考え方の中のお話かもしれませんが、そんなことを考えているところです。</p> <p>学校としては、やはり幕張に都内から学びに来ていただくと良いので、公共交通機関を利用したアクセスを高めていただいて、海浜幕張だけでなく地域全体が活性化していくような形があればよいのではないかと考えております。</p> <p>先ほど、社会貢献意識というお話をされていた方がいらっしゃったかと思いますが、まさにその通りで、高校生にまちへの貢献意識を持っていただいたり、卒業してからも、ちょっと思い出して戻ってきてもらえるような関係があると非常に良いのではないかと感じております。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。社会課題に敏感な学生、若者がいて、学生が主体的に動くとなりがサポートしてくれる、という現実があるのだろうと思いますし、今、田村先生がお話しされましたように、本当に今世の中で言われているリカレント教育そのものというか、まちと繋がってそのような展開になるということの示唆になっていると実感いたします。ありがとうございます。</p> <p>今、幕張ベイパークに、これからの幕張に期待する人達も集まっていると思いますが、遠藤さん、これまでの議論の流れの中で、いかがでしょうか。</p>
遠藤委員	<p>ありがとうございます。今、我々幕張ベイパークエリアマネジメントは、幕張ベイパークのまち育てのようなところに携わっています。まさに資料に書いてあったり、有識者の方からコメントいただいたようにいくつかの重要な要素を、我々のまち育ての活動にも参考にしております。</p> <p>例えば、多様な市民の主体的な参画や、楽しさを高める、賑わいの創出、公園や広い空間の活用、まちの一体感といったところも、エリアマネジメント活動の中で日々意識してやっているところです。</p> <p>そのアイデアのようなところも含めて、11月6日から7日にベイパークで開催した大きなイベントの様子を動画でご紹介しながらお話ししたいの</p>

	ですが、3分ほどいただいてもよろしいでしょうか。
田中委員	はい。共有をお願いします。
遠藤委員	<p>こちら、11月6日と7日に、ベイパークの方で「24時間公園を楽しもう」というテーマで、イベント（MAKUHARI BAY-PARK FESTA）を開催いたしました。これは色々な市民の方々が中心となってボランティアベースで作ったイベントです。</p> <p>千葉ロッテマリーンズさんも、ダンスアカデミーさんでご参加くださりまして、ありがとうございます。</p> <p>今回こだわったのが、公園という資源をどううまく活用するかというところで、公園の色々な場所で様々な取組みをしています。キャンプ、スポーツ、ワークショップ、フリーマーケット、ステージなどを同時並行的に行って公園を楽しむ、というところを我々がリデザインさせていただいた企画です。</p> <p>今回、この後動画に出てくるスカイランタンというコンテンツを持ち込んで、それによってまち内外からおよそ一万人弱のお客様に来ていただきました。駅から15分くらいの小さなまちですが、想像以上の集客があって驚いています。</p> <p>子供たちも楽しんでもらえるようなコンテンツも用意しました。小さな子でも参加いただけるワークショップなどで、我々のロゴを作ったりしました。</p> <p>イベントは夜までやっておりまして、これはちょっと珍しいと思いますが、近くのゴールドジムさんと連携してボディビル大会のようなことを行いました。チーバくんにも登場していただきました。こちらは幕張を拠点に活動されているIBM BIG BLUEさんというアメフトチームです。こういった方々とも連携し、アピールしていただいています。</p> <p>そして夜のイベントとして、このスカイランタンを行いました。これが非常に好評でして、1,000個打ち上げをし、すぐに完売しましたが、参加者の6割くらいが、実はまちの中ではなく外から来ていただいたお客さんでした。そういった外への発信というところでも、うまくできたと感じております。</p> <p>さらに、夜は公園にテントを張っていただいてキャンプで一泊することもできる、という仕立てで行いました。</p> <p>24時間イベントですので、その次の朝もヨガのワークショップを行ったり、その後には運動会も行いました。そういった形でまさにイベントを終えたばかりのところでございます。</p> <p>お伝えしたかったのは、作り手はボランティアの人たちなのですが、ボト</p>

	<p>ムアップのアプローチで皆が参加しながら楽しいものを作っていこう、といったことで取り組むと、色々な人が自然と集まってきてくださって、地域の事業者などとも連携できたということです。</p> <p>こういった取組みをベイパークだけではなくて、まち全体で実施できるような仕掛けをすれば、もっとまちの中での繋がりなども増えますし、楽しさや、皆さんの幸福度といったものも上がっていくのではないかと考えています。</p> <p>ざっと話してしまったのですが、このようなことも行っていますので、是非アイデアとしてみなさんと共有したいと考えております。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。このように全世代が参加する、外にも開かれた立体的なイベントを開催されたということは凄いことだと思いました。多くの人を繋げる新感覚の、イベントを超えた何か、装置のように思いますが、こういったことがあると、本当にまちが一体化すると実感いたします。ありがとうございます。</p> <p>ここまで第1部として、理想の幕張はどのような姿なのか、どのようなことをやっていけばいいのか、まちはどのように変わっていくのか、ということについて、色々ご示唆いただきました。</p> <p>そこに住民や、装置を提案される皆様のような担い手のお立場の方が、どのように関わっていけば良いのかというヒントを多くいただきました。目先でやることと、将来的にわたってやっていくことと、同時進行でいただきましたが、途中でいただいた機能更新ということも考えていくと、これを良い循環で回していくために、その理念に基づく行動をどう起こしていくかが肝になっていくのであろうと考えております。</p> <p>スケジュールの関係もありますので、1部のお話はここまでとさせていただきます。お話し足りなかったこと、お話を受けて発言なされたいこともあるかと思っておりますので、1部に引き継いで2部の中で続けてお話を進めていただければと思います。</p> <p>皆様からご見識に基づく色々なアイデアもいただきまして、本当にありがとうございます。</p>
<b>【第2部】</b>	
田中委員	<p>それでは、続きまして全体討議の2部に進めたいと思います。</p> <p>今度は、「30年後の「よりよい」幕張新都心に近づくために必要な、分野横断的な取組み・仕組み・基盤に関するアイデア」というテーマで、全体で議論していただきたいと思っております。</p> <p>都市経営や全体最適の観点で、分野横断的に何に取り組むべきか、先ほど第1部の議論で出た取組みをどのように融合させるか、先ほどの馬場先生</p>

	<p>のお話には解がたくさんあるように思いますけれども、この融合という点について、ご意見を伺いたく思っております。</p> <p>横断的な取組みの例としてスライド内に示したものを想定していますので、その中でご関心の高いものへのご意見や、この中にはない他の視点というものも、いただけたらと思います。</p> <p>それでは皆様、スライドをもとに、ご発言をよろしく願いいたします。</p>
<b>第2部全体討議</b>	
後藤委員	<p>ありがとうございます。今の皆さんの発表を聞いていて、とても感銘を受けたのは、やはり循環するというキーワードと、そのために混ざり合う、というところですか。1回目からそういった話題提供をされていたと思いますが、ようやくここにきて自分の中に沁み込んだ感じがします。</p> <p>やはり多世代ですとか、全然違う人たちが混ざりあって、供給側も消費側もなくどちらの役割にもなる、というキーワードがすごく新鮮でした。今ご紹介いただいた映像もとても良くて、住民側の人たちが受け手になるばかりではなく、与える側にもなっている良い例であると思いつきながら見させていただきました。</p> <p>横断的にやるというところでは、やはりこの幕張新都心全体できちんと一体感のあるブランディングをする必要があると思います。幕張新都心といえば何だろうかと考えると、外から見たときに、まだまだ幕張メッセやマリスタジアムというキーワードが多いように思います。それもとても良いのですが、その次なるブランド戦略といえますか、次なるイメージ、次なる幕張新都心の姿を外に向けてきちんと創り上げるためには、建物名などではなくて、一体感のあるものを作っていかなくては、と思います。そのためのエリアマネジメントなども進められていると伺ったので少し蛇足だったかもしれませんが、そういったことを思っています。</p> <p>横断的にやるということでもう1点、やはり回遊性の問題は外せないと思います。もっと素敵なところをたくさん作って、一体感のあるブランディングができたとしても、まちに来ていただいた人にきちんと回ってそこにアクセスしていただかないといけないという点は、とても課題だと思っています。</p> <p>具体的には、新駅ができたときに、例えばイオンモールなど、すぐ近くのスポットだけに行けるような駅にするのではなく、駅からどれだけ遠く、どれだけ多くの場所にアクセスしていただけるのか、ということを具体的に考え始めても良いかと思います。</p>
田中委員	重要な観点をありがとうございます。まさに循環、混ざり合うということ

	<p>は重要だと思いますし、それには幕張全体でブランディングがしっかりしていないと有効に機能しないだろうと思います。</p> <p>1部でも域内交通のことをお話しいただきましたが、回遊性や、これが人を視点にしたときにどのように繋がってゆくのか、という観点はとても重要なところではないかと思います。</p> <p>続けて、どなたかご意見ありましたら是非、お願いします。</p> <p>全く別の観点から視点を投げ込んでいただいても結構でございます。モビリティなどの話題など、まだ出ていないところもございますので、ご意見ありましたら、どうぞお願いします。</p> <p>回遊性などの観点から、豊田さん、いかがでしょうか。</p>
豊田委員	<p>豊田でございます。回遊性については、自然発生的なまちにおいては、人のスケールとまちのスケールの中間的な構造が必然的に存在しますが、幕張においてはそれが存在しない部分があるので、いかにシステムとしてそこを補完していくかは非常に戦略的な課題でもあると思います。</p> <p>事業性や学術的な意味でも、この点は研究対象になると思います。そこをうまく戦略的に活かしていくのが良いのではないかと思います。千葉には千葉大学がありますし、今私が所属している生産技術研究所も元々は千葉大学の西千葉キャンパスにあり、非常に縁が深かったりもします。</p> <p>今、まちづくりに関して、事業者単体やひとつの業態などが、何かしらの理論とビジネスを実装するというのは実質無理だというのが、皆さんの実感だと思います。何かしらの公共がより大きなプラットフォームで産業や企業の枠を束ねて理論、仕組みを作り、それを実装する場所も提供する、ということがないと、なかなか実装できないというのがこれからの社会課題というか、難しさだと思います。</p> <p>それを戦略的に作っていく拠点として、まず研究施設、もしくは国際的な住民や、研究者を受け入れるような場所を作っていく、ということは長期的にとっても大事です。そこに実証実験場として人や企業が集まるようなサイクルを作っていくということもとても大事なのではないかと思います。</p> <p>そのようにやっていくうえで、住民だけでなく研究者が集まる、国際的な人が集まるという意味でも、まちが実証実験場として使えるという状況が非常に大事だと思います。</p> <p>誘致を前提にしたまちの3D技術としてのお話をいたします。IoT千葉を戦略的に整備して色々な企業がシェアして使える、道路が優先的に使える、店舗、学校との連携を官、まちが取り持ってくれるといったことをまち全体で実験できるような仕組みがあると、企業や研究者などが集まると思います。あとはシェアオフィスのようなもの、職・住とカルチャーが連携してい</p>

	<p>る格好いい場所といったものがあると、とても良いです。</p> <p>検見川浜のように世代が完全に固定して苔のように年老いていくまちではなくて、常に循環して水が入れ替わっていくようなまちにするためには、そういった横に流れるような仕組みと拠点づくりというのを戦略的に行う必要があります。特に今、官の力というのはとても大事になってきているという気がします。</p> <p>それに加えてお話ししますと、先ほどマリスタジアムのお話がありましたが、スタジアムで時間と用途が決まっているというのは非常にもったいない。公園としてのスタジアムであっても良いと思います。</p> <p>幕張にはゾゾパークホンダフットボールエリアや JFA の施設もあります。ああいったところを V チューバーのスタジオ、防音されていて空間スキャンによって 3D データの配信もできるスタジオ、スポーツ選手が自主練をするときに高度なハイテク練習や分析ができる拠点、などに活用すると良いと思います。</p> <p>V チューバー、スタジオ使い、カフェ使いの人が、時間・スケール感・利用のレイヤーを混ぜて使えるような方向にスタジアムやスポーツ施設をうまく使っていく。レジャーに使えて、ゲームの拠点にもなって、メッセとも連携する。そういったあるシステムが複数の施設に跨ることで、その施設の専門性も高まるし、横に連携する使い方や多様性も高まります。</p> <p>まち全体でこういった理論的、ビジネス的なモデルを作ることをまち全体として実証できるとすごく魅力的だと思います。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。まち全体で研究や実証をする、というのはとてもわくわくする言葉だと思います。回遊するまち、一体感を醸造するための繋がりとということで、広井先生、ご専門の見地からいかがでしょうか。</p>
広井委員	<p>ありがとうございます。今までの皆様の意見を本当に印象深く伺っていたのですが、特に響いたのが、金親さんがお話しされた「文化」ということです。これは横断的という話とも繋がってくると思うのですが、やはり文化という視点は都市のあり方を考えるにあたって非常に重要だと思います。</p> <p>ここで言う「文化」というのは割と広い意味で、まちのアイデンティティのようなもの、愛着、風景や街並みの記憶、お祭り、それらが連なっていくようなことです。</p> <p>私は「鎮守の森コミュニティプロジェクト」というものを進めているのですが、やはり文化というのは何らかの歴史性といったものに関わると思います。もちろん幕張新都心は通常の意味での古くからの場所ではなくて、むしろ新しい場所で、それが個性でもあると思います。</p> <p>これから新しい歴史が作られていく中で、懐かしい未来というような言</p>

	<p>い方もありますように、新しいけどどこか懐かしさを感じるといった要素が大事になるように思います。そういった文化性、歴史性の厚みのようなものが加わってくると、よりいっそう魅力的なまちになってくる。30年後となると、最初に幕張新都心に来られた方たちは、もう亡くなっています。そういった意味で、先祖ではないですけども、世代間の継承性のようなことも含めて歴史がこれから作られていくことになると思います。観念的な言い方かもしれませんが、そういった文化性といったことが、これから大事になるのではないかと思います。</p>
田中委員	<p>大変ありがとうございます。金親さんのお話を受けて広井先生にまた文化について昇華していただきました。もう一度金親さんに戻って今の議論の中でプラスアルファしてお示しただけのことがありましたら、お話しくださいますでしょうか。</p>
金親委員	<p>私が文化ということを上上げたのは、いわゆる幕張新都心のイメージ自体がいわゆる先進性、先端性であったり、あるいはこのまちに新しいエンターテインメントを求めて若い人たちが集まる、ということであり、若い人たちの新しい文化がここから生まれておかしくないという考えからです。そのようなものがどんどん生まれていく、あるいは新しいアーティストやクリエイターを受け入れられる優しさであったり幅広さを備えている、というまちであると良いと思います。</p> <p>そういった人たちが集うことで、このまちの至るところでクリエイターが活動して新しい文化・芸術が展開、創造される、その作品が展示される、それを一般の市民が見られる、といったことが実現できたら良いと思います。</p> <p>先ほど豊田さんからこのまちの中で極めて新しい先進的な取組みを、というお話がありましたが、おそらく30年前にこのまちを作るときは、このようなまちが本当にできるのか、というような、きわめて突拍子もないような発想の中で始まったのだと思います。そういった意味で言いますと、今は成熟してしまって、そこにあぐらをかいているという気がしないでもありません。</p> <p>先ほど実証実験のお話もありましたが、今一度原点に立ち返って、そのような取組みで、誰もが驚くような先進性のあるまちとしての価値を高められれば、と思います。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。お話を伺っていて、横断的な取組みだけでなく、空間全体で、ということが重要だと思いました。</p> <p>私も、確かに幕張ができた時はまだ誰も見たことのないもの、未来の都市であると感じてわくわくした記憶がありますし、それがこうやって現実に、</p>

	<p>日常になっていくのだということを改めて体感させてもらった気がします。新たなご提示と、特に今の若い人たちにとっての新しい未来や、あるいは高齢の方にとっても、もう一章だけでなくもう二章、三章も生きられるような、そんな感じの提案がこれから出てくるのではないかと、ということも感じました。</p> <p>スタジアムのことも皆様のお話から何回も出ました。島田さんはいかがですか。</p>
島田委員	<p>スポーツの分野で言うと、実はテクノロジーとの組み合わせということが、盛んに国の方でも言われています。例えば e スポーツなどがわかりやすい例ですが、それ以外にもウェアラブルトレーニング、ライブストリーミングなど、色々な技術とスポーツが組み合わさることによって新しい産業を起こしていこうというような方向性が示されています。</p> <p>我々がその中で取り組もうと思った時に、ネックになってしまうのが、インフラ部分のネットワークのようなところですね。そこを全て自前で用意するといったところが少しつらい部分ではあります。</p> <p>そういった部分で行政的な支援をいただいたり、まち全体にインフラを整備していただいて、そのプラットフォームの中で、色々なプレイヤーが新しいことに取り組めるようにしていただくと、今回書かれていたスポーツと新しい技術を組み合わせて連携するといったことが少しずつ具体化していくのではないかと思います。</p> <p>以前、ウェザーニューズ社とお話ししたときに、ラグビーのワールドカップの活躍の背景には、ウェザーニューズ社がコンディショニングに役立てるために気象データを提供されていたということがあったと聞きました。我々も自分たちのチームで、例えば気温や湿度でボールの飛び方がどれだけ変わるのか、道具はどのような状態にしたら一番良いコンディションで反発力をもたらすのか、といったことについて、地元の企業などと連携できるのではないかと思います。そのような中でインフラの部分に関して、考えていただきたい部分があります。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。そうですね。スポーツ×技術、スポーツ×デジタルという面から、新しい文化が生まれてくるということもあると思います。今お話しされたウェザーニューズ社も、民間で気象サービスを始められましたけれども、実は気象庁などへも大変な刺激を与えた会社であると思います。官と民の役割及び連携については後程、今日オブザーバーで参加されている官の方々にもコメントいただこうと思いますが、強みを活かしながらですとか、連携するともっと大きなものが生まれる、というところが皆さんの予見の中にあるのだと実感いたします。</p>



	<p>現場でどのような役割に着手していくかという視点が出ましたが、遠藤さん、何かありましたらお話しくださいますでしょうか。</p>
遠藤委員	<p>ありがとうございます。皆様からのお声として、新規性・先端性や実証実験都市など、未来都市のようなキーワードがありました。私もそういうイメージは企業側、ビジネス側から見たときにとってもマッチすると思います。一方でそれだけではなくて、住んでいる人から見たときに、自分たちの生活がより便利になった、といった実感も合わせて感じられるようなまちであれば、より先進的であると思います。生活に溶け込んだテクノロジーのようなものを進めていくというのが、このまちの方向性とマッチしているのではないかと思います。</p> <p>ハードなカッコいい建物を造るといったものではなくて、もっと人々の生活の裏側を、テクノロジーを使って便利にするという取組みはとても良いのではないかと思います。</p> <p>そのうえで、市民生活や働く人たちの行動に基づいたモビリティの先進的な仕組み、地域 SNS のようなもので需要と供給をマッチングさせるような仕組みといったプラットフォームをこのまちでつくれたら、とてもおもしろいし、先進的なのではないかと思います。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。馬場さんはご自身でも色々な主体と連携してこられたのではないかと思います。こういった連携、一体になる、といった観点についてはいかがお考えでしょうか。</p>
馬場委員	<p>先ほど遠藤さんからフェスティバルのご様子を見せていただきました。たくさんの方がいらっしゃいましたが、あれを実現させるためには、突然招集をかけた人が集まったということではなく、日常からそういった人間関係など、何かベースを作られていたのであろうし、その努力が見えてきました。</p> <p>幕張新都心は、幕張メッセも含めて、一般市民には祝祭空間が際立って見えてきます。その祝祭空間の日常性というところにもう一度着目して、非常にたくさんの方が来る、誰も来ない、というオール・オア・ナッシングではなく、そこを繋いで、どのようにしたら常に日常的な関わりをもちながら潤っていきけるか、という部分に課題があるのだろうと感じながら拝見していました。</p> <p>いつも祝祭しているわけにはいかない、といったときに、触手を出しておく、ということは大事かと思えます。先ほど後藤さんが、循環してポイントを周るといったこととお話しされていましたが、何かイベントがあった時だけ来た人が周ればよいという話ではなく、日常的に人々の暮らしの息抜きになるような、祝祭のときにやっていることがちょっと漏れてきている</p>

	<p>部分というのが、風景の中に日常的にあるともっと良いと思います。</p> <p>今、幕張のまちを歩きますと、普通の時にはシーンとしていて、どなたもいらっしゃらない中を歩くような形ですけれど、そこに空間でもアクティビティでも良いですが、日常的に何か触手が出ていると良いと感じながら拝見していました。</p> <p>スタジアムについてもそうです。このあいだ慶応大学に伺ったのですが、慶応大学のフィールドでは、使われていない時も、裏の校舎から出てきた人たちが観客席でお茶をしたりしていました。そういったA面使いとB面使いのような、「使える祝祭空間」のようなものができたら新しくおもしろいと思いました。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。お祭りをやっていない静かな日でも、何となく祝祭を実感できる、ということは大事だと思います。前に馬場さんはロケハンをしてくださり、その視点からすごくいきいきと幕張が見える写真を見せてくださったのですが、やはりちょっとしたフラグを立てるだけで、風景が違って来るのだらうと思います。</p> <p>土肥さんはそういったことも意識しながら色々な企画を立てていらっしゃると思うので、この観点や、繋がり、連携について、コメントいただけますか。</p>
土肥委員	<p>祝祭空間ですが、幕張は人工的なまちなので、神社、お寺がないというのが特徴としてあるかと思います。ありとあらゆるまち、村では、そういった盆踊りや色々な祝祭できるような象徴的な場所があります。例えば、何が祝祭空間になりうるか、というところから、市民と一緒に考えて決めていくというものができたら良いと思います。</p> <p>例えば、ある地方の村に大きな時計台ができればその時計台は象徴的なものになりますね。またはよくまちの中にある彫刻ですとか、何のために彫刻があるかという意味にもう一度立ち返ってみると良いと思います。</p> <p>よくある芸術祭、というものに関して言うと、色々な場所に作品を点在させて回遊させるというようなやり方が主流だと思います。そういう意味で、まちの中にそういった作品や、先ほどお話に出てきた実証実験場や、新しい農業の研究をしている施設といった、色々な場が点在していると、それが祝祭空間になりうる可能性があるのではないかと考えました。</p> <p>こういったものを市民と一緒にやっていくことを考えたときに、海外の例を見ると、予算の0.1%を市民に与えているような自治区などがあります。例えば千葉市で幕張の市民について予算を0.数%つけて、それをどのように使おうかというところから色々な合意形成をしていく、そういったことにチャレンジしてみるのも面白いのではないかと考えたりしました。</p>

田中委員	<p>ありがとうございます。今日は色々な、チャレンジし甲斐のあるアイデアもたくさんいただきました。</p> <p>お時間も迫ってまいりましたが、他に今日話しておきたいと思われることはありますでしょうか。</p> <p>大変色々なキーワードをいただきました。1回目のアイデア、皆様からのご見解、プレゼンテーションをまとめたものに、さらに深く、広く掘り下げて拡大していただくようなコメントを多数いただきました。あえてここは幕張らしさとして忘れてはいけない、ということもご提示いただけたと思います。</p> <p>もしお気づきの点がございましたら、メール等でも結構ですので、事務局にいただけたら幸いです。</p> <p>皆様大変ありがとうございます。これにて第2部も終了させていただきたいと思います。長時間熱心に議論いただきまして、感謝を申し上げます。</p>
------	---

#### (4) その他

(オブザーバー、千葉市) 全体討議に関する感想を述べた後、事務連絡を行った。

その他	
田中委員	ではここで、本日オブザーバー参加をいただいています、習志野市の越川課長にコメントをいただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
オブザーバー、千葉市からの感想	
越川 習志野市 総合政策課 長	<p>本日はありがとうございます。本日も非常に多岐にわたりまして、様々なご意見をいただきました。非常に貴重なご意見で勉強になりました。ありがとうございます。</p> <p>その中でも行政としましては、計画的に順序立てた都市機能の更新や、テクノロジーの面でのインフラの整備といったこと、こちらは大変大きな課題なのですが、行政にしかできないことでもあると思いますので、また千葉市とも意見交換しながら検討を進めていきたいと思っています。</p>
田中委員	<p>ありがとうございます。今日は官の役割、特にインフラのことや通信環境のこと、行政にしかできないことなどについて、委員の先生方やボードメンバーの皆さんからご意見をいただいたと思います。メッセージありがとうございます。</p> <p>続きまして、千葉市の勝瀬部長からご意見をいただければと思います。</p>
勝瀬 未来都市戦 略部長	<p>千葉市の勝瀬でございます。田中先生、本日は様々なご意見に対してコーディネートしていただき、どうもありがとうございました。</p> <p>第1回目の懇話会に引き続き、様々な分野でご活躍されている委員の皆様方から、それぞれのご専門の立場で、今後の幕張新都心のまちづくりに向けてご意見をいただきましたこと、お礼を申し上げます。</p> <p>本日は「よりよい」幕張新都心に近づけるというテーマでご議論いただきましたが、高齢者を作らないまちづくり、海などの自然との共生、幸福度を高める視点や実証実験の場としての基盤整備と仕組みづくり、文化によるまちの価値・アイデンティティの向上や市民参加の新しい合意形成の仕組みづくり、若者の学校以外での活動の場所づくりやベイパークでの地域の一体感を育むきっかけづくりなど、本当に多くの魅力的なアイデア、ご意見をいただいたところでございます。</p> <p>本日いただきましたご意見、アイデアを活用させていただきながら、これまで築いてきた幕張新都心らしさをより一層引き出して成長し続けていけるよう、まちづくりの理念を確立していきたいと考えてございます。</p> <p>また、まちづくりを推進していくうえで、本日のご議論にもございましたけれども、官と民の相互に補完しながらの連携というのは、従来にも増して</p>

	<p>大事な要素になってくると認識しております。このような視点も踏まえて、まちの皆様が共有できる将来構想を取りまとめていきたいと考えておりますので、引き続きアドバイスをいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。</p>
田中委員	<p>ありがとうございました。本当に皆様からたくさんのご意見をいただきました。幕張というのは戦略的に作られつつも、自然、文化など、まちを支える人が創り出した歴史や慣習があって、様々なものを包含した特異なまちであると思いますし、日本を代表した都市として世界に打って出るといった期待も込められていると思います。</p> <p>委員の皆様からいただいた意見を取りまとめさせていただいて、次につなげてまいりたいと思います。今日は皆様、大変円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>では、議事進行を事務局にお返しいたします。</p>
<b>事務連絡</b>	
運営事務局	<p>田中先生、ありがとうございます。そして、有識者・関係者の皆様、オブザーバーの皆様、ご参加いただきまして、ご議論いただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、議論につきましては以上となります。次第の最後、今後のスケジュールを含めまして、千葉市の志村課長よりいただければと思います。よろしくをお願いします。</p>
志村 幕張新都心 課長	<p>本日、皆様には様々な貴重なお話をいただきました。本当にありがとうございました。</p> <p>これから、このまちづくり将来構想の原案を更に高めていくために、いただいたご意見を取り入れるようにしてまいりたいと思います。</p> <p>そういった中で、本日お時間の関係でお話しいただけなかったご意見やご感想などを含めまして、引き続き頂戴できればと思っております。後程別途事務局よりメールにてご案内させていただきますので、是非ともいただければと思います。</p> <p>また、懇話会につきましては、第3回を年明け2月から3月頃に予定をしております。引き続き、その際にはご出席、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。詳細につきましてはまた別途ご連絡いたしますので、その際はよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は本当にありがとうございました。</p>
—閉会—	